明治中

「学びに向かう力」の育成
～主体的な学びを支える学習場面の工夫～

（３年計画の２年次）

校長　　岩　舘　　昇

１　研究主題について

山や川といった大自然に恵まれた環境で育った本校の生徒たちは、素直で純朴である。一方、人口の流動が少なく、幼少時からの固定化した狭い人間関係や社会の中で生活しており、他からの刺激や情報が少ないため、向上心や粘り強さに欠ける面がある。また、通常学級に在籍していても、授業の内容を理解するために、特別な支援を必要とする生徒が複数おり、学力の二極化が見られている。そのため、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりに力を入れ、適切な配慮や支援のあり方の研究を進めてきた。

このような取組により、基礎力コンテストや学力診断テストの結果等において、徐々に学習意欲や基礎学力の向上という成果が見えてきた。一方、支援されることに慣れてしまい、生徒が自ら進んで考えたり、工夫して学習を進めたりといった、主体的に学んでいこうとする力が不足しているという課題が見えてきた。幼少時からの人間関係の固定化の影響による「関わりのスキル」の弱さや、進んで自己表現することや根拠をもとに話合いを深めることを苦手としている、という生徒の実態が影響していると考えられる。そういった面を乗りこえさせ、たくましく未来を切り開いていく力を身に付けさせる必要がある。そこで、主体的に学ぶことができる環境を整え、協働や対話活動を通して自己の考えを広げ、幅広く学んでいくことができるように工夫していくことが必要であると考え、本研究主題を設定した。

昨年度は感染症防止対策により実施・徹底が不十分だったため、研究２年目である本年度は生徒が主体的に学ぶ意欲を高めるために、生徒間の相互意見交換、探究活動を取組の中心に据え、到達目標の明確化や思考過程の可視化を通して、目標達成のための教材や学習活動を工夫していくこととする。年間を通して授業改善チェックシートの集計結果をもとに、教員自身の授業の成果や悩みについて共有、あるいは協議するとともに、到達目標や指導の手立てが主体的に学ぶ意欲を高める上で効果的であったかどうかを生徒に調査することにより、授業改善に役立てていきたい。

２　研究のねらい

生徒が自分で考え問題解決に取り組む力を育てるために、明確な到達目標の提示、生徒同士が協働・対話を通して解決する場面の設定、思考過程の可視化（思考ツールやホワイトボード等の活用）を通して、教材・学習形態・授業の導入を工夫する。また、生徒自身に学習意欲と授業内容の理解の高まりを実感させる指導の在り方を、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

授業において明確な到達目標を示し、生徒が主体的に取り組めるように学習形態や教材、授業展開を工夫し、実践を積み重ねることにより、生徒の主体的・対話的に学ぶ意欲が向上するとともに、学習内容への理解が深まって基礎・基本が定着し、学びに向かう力を育成することができる。

４　研究内容

(1) 相互授業公開の実施
- ア　明確な到達目標の提示と、目標達成のための学習形態や教材、授業展開の工夫に留意した相互授業公開を行う。
- イ　公開授業後に生徒対象アンケートを実施し、集計・分析する。
- ウ　研究協議を行い、授業改善に努める。

(2) 授業改善チェックシートの実施
- ア　教員対象の授業改善チェックシートの項目を精選し、実施方法を工夫する。
- イ　定期的に授業改善チェックシートによるアンケートを行い、研究実践内容を確認する。

(3) 生徒理解を目的とした諸検査および基礎力コンテストの実施と活用
- ア　知能検査やその他諸検査の結果を、全教員で共有、分析し、授業改善に活かす。
- イ　年に２回、Ｑ－Ｕ検査を実施し、その結果を全教員で分析、共有し、生徒理解に活かす。
- ウ　学習意欲向上のための手段として基礎力コンテストを実施し、学習習慣の確立を図る。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要　等
4	5	全体会（共通理解）研究主題・副題
4	19	第１回授業研究（全校Chromebook活用学習） 総合的な学習の時間　授業者　太田　也主志
4	26	第２回授業研究（全校Chromebook活用学習） 総合的な学習の時間　授業者　岩舘　昇
5	26	全体会（共通理解）学習指導案の書き方
5	31	第３回授業研究（相互授業公開） １年技術・家庭　授業者　北川　里佳「衣服の手入れ」」
6	25	全体会（授業改善チェックシート結果の共有と方向性の検討）
10	27	全体会（授業改善チェックシート結果の共有と方向性の検討）
11	4	教育指導課・総合教育センター計画訪問
12	14	第４回授業研究（相互授業公開） ２年道徳　授業者　戸田　恵美「秀さんの心」」
1	19	全体会（授業改善チェックシート結果の共有と方向性の検討）
1	25	第５回授業研究（相互授業公開） １年道徳　授業者　夏坂　久美子「私が働く理由」
2	1	第６回授業研究（相互授業公開） ３年道徳　授業者　太田　也主志「鮨職人小野二郎さんの生き方」
2	3	第７回授業研究（相互授業公開） ２年理科　授業者　蔦谷　康司「結露とはどういう現象か」
2	7	第８回授業研究（相互授業公開） １年数学　授業者　髙橋　昭「空間内の平面と直線」
2	8	第９回授業研究（相互授業公開） １年数学　授業者　石沢　正彦「作図の演習」
2	9	第10回授業研究　（相互公開授業） 1年音楽　授業者　沢森　真奈美「日本の民謡」
3	2	道徳校内研究（要請訪問） 講師　教育指導課　主任指導主事　大野　勉「発問の工夫～ゆさぶり発問」

(2) 一般研修

月	日	内 容 ・ 講 師 ・ 概 要 等
4	5	第１回生徒理解会議
8	18	第１回道徳適性検査の分析・考察と共通理解
8	18	第１回Ｑ－Ｕ検査の分析・考察と共通理解
1	19	第２回Ｑ－Ｕ結果の分析・考察と共通理解
1	19	第２回生徒理解会議

６　研究の成果

(1) 話し合いや教え合いの活動により作業の進度差が少なくなった。観察や生活アンケートの分析から、自分の考えを発表できる生徒が徐々に増え、授業が楽しいと感じる傾向が高まった。

(2) 単元の終わりに学習内容と自分を結び付けられるように、自分の考えを文章化する課題を出し評価に活かした。既習事項の確認やまとめる場面では、思考ツールの活用が効果的で生徒が興味をもって参加するようになった。

(3) Chromebookを活用し、感想の記入・分からないことを調べる・資料の共有、協同でまとめさせることへの活用を試みた。周囲から学ぶなか、各学年で発表が上達した生徒が見られた。また、デジタル教材をICT機器で示して授業内容のまとめ動画の視聴やシミュレーション活動を取り入れたことで、主体的な学びに向かうきっかけ作りができた。

７　研究の課題

(1) 授業改善チェックシートの集計結果より、「根拠や理由をつけて話す」指導が難しいと教師が感じていることが分かる。今後は発問のしかたや話合いの深め方の工夫が重要であり、根気強い指導が継続して必要である。

(2) 道徳や総合的な学習の時間の授業をはじめ、諸活動を通してChromebookを活用した取組を重ねてきたが、学習を補助するはずが充電不足や家に忘れてくる等の生徒が見られたため、学習規律の徹底を図り、さらに自律した行動ができる生徒の育成を図ることが必要である。

（記入者　戸田　恵美）